

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目： 基盤研究(C)
 研究期間： 2007～2009
 課題番号： 19520098
 研究課題名(和文) 売立目録所収美術作品のデータベース化とその近代日本における美術受容史研究への応用
 研究課題名(英文) A study of Uritate-Mokuroku(sales catalogues of art works) in the first half of the 20th century in Japan
 研究代表者
 高松 良幸 (TAKAMATSU YOSHIYUKI)
 静岡大学・情報学部・教授
 研究者番号： 40310669

研究成果の概要 (和文)：

本研究は、戦前の美術品の売立目録のうち 100 冊について、所収の作品の写真・テキストをデジタルデータとして記録し、その各種データを所蔵履歴、活用履歴などさまざまな角度から検索可能なデータベース化を試みた。また入札会の実況を伝える書籍、新聞雑誌記事等の関連資料の検討を行なうことで、戦前のコレクターの美術作品の保存、活用に対する姿勢、美術観や美術作品の移動に関する戦前の社会的意識等を検証した。

研究成果の概要 (英文)：

In this study, investigator built the image database of art works which were put on 100 Uritate-Mokuroku(sales catalogues of art works) in the first half of 20th century in Japan. Also, investigator studied the sales of art works of this time in Japan, especially from the viewpoint of art collectors' consciousness for the art.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	700,000	210,000	910,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：美術史・芸術諸学・博物館学・コンテンツ・アーカイブ・美術受容史・入札会・高橋篤庵

1. 研究開始当初の背景

近代日本における美術受容史に関する研究は、近年多くの成果を産んでいるが、その多くは、博物館や博覧会・展覧会、美術出版

史、文化財保護制度史等に関するもので、民間の個人・団体による日本・東洋美術のコレクションの離合集散、あるいはその史的位付けに関しての研究成果は、十分であるとは

言えない。日本の私立美術館・博物館の多くが、戦前の民間コレクションを基盤として成立していることを考慮すると、今後の私立美術館・博物館史研究の進展という観点からも、この問題の研究は不可避である。

一方、戦前の入札会の際に発行された売立目録に、膨大な数の出品作品の画像データが収録されていることは、周知の事実である。しかし、これらの作品のうち、関東大震災や第二次世界大戦の戦災などで失われたものについては、それらが存在した事実を確認できる一次的資料が売立目録所収の画像である場合が多い。また、売立目録所収の作品の中には、現在その所在が不明なものも多く、それらの作品の検証や再発見のためには、売立目録所収の画像が重要なデータとなる。

2. 研究の目的

本研究は、戦前の売立目録所収の膨大な作品の写真・テキストをデジタルデータとして記録し、その各種データを所蔵履歴、公開、茶会における使用等の活用履歴などさまざまな角度から検索可能なデータベース化し、有効活用を図るための方策を検討するとともに、入札会の実況を伝える書籍、新聞雑誌記事等の関連資料の検討を行なうことで、戦前のコレクターの美術作品の保存、活用に対する姿勢、美術観や美術作品の移動に関する戦前の社会的意識等を検証する。また、これまでほとんど省みられていない戦前における実物の美術作品鑑賞の場としての入札の下見会、一般の人々が接した美術図書としての入札目録の役割等の研究を実施する。

データベース作成に関しては、もちろん、数千冊にも及ぶ売立目録のすべてを取り上げ、これを実施するのは困難であり、本研究では、その試行的実践として、江戸時代の大名・公家・豪商、近代以降の著名コレクターなどを荷主とする入札会の売立目録 100 冊以上、作品件数 30,000 点以上について、その画像データベースを作製することを目標とする。

3. 研究の方法

(1) 入札目録 100 冊、総点数 30,000 件以上のデジタル画像化及びデータベース化を実施した。底本は、研究代表者所蔵の入札目録を使用した。

(2) 入札目録掲載の各作品の作者・作品名・員数・法量・装丁・付属品等に関するテキストデータのほか、当該作品に関する現在の呼称によるこれらの項目に関するテキストデータの作成、さらに入札会における落札者・落札価格等のデータの調査をおこない、データベースに入力した。また、各作品の概要、所蔵・公開等の活用履歴に関するデータについてもできる限り入力した。

(3) 主として既存のデータベースアプリケーションソフト(マイクロソフト・アクセス)を用いたシステム構築を実施した。また、インターネット公開用には、そのダイジェスト版を作成し、2010 年度中に公開の予定である。

(4) 戦前における入札会の実態について、入札会の記事を掲載する新聞・雑誌等も含めた諸文献の調査などを実施した。

(5) 入札会に関係した人物に関する調査研究
入札会における作品出品者、札元、作品購入者のうち、主だった人物に関する各人物像、各美術コレクションの離合集散の実態、美術及びコレクションに関する考え方等に関する調査研究を実施した。

(6) 上記各項目についての研究成果を研究成果報告書(別冊)に取りまとめた。

4. 研究成果

(1) 2007 年度

研究初年度は、まず、データベース化する売立目録の候補 100 冊の選定を行った。選定に際しては、売立荷主および、そのコレクションの重要度、当該の売立に対する当時の世評の高さ、高額落札作品の多さ、現在伝存する著名作品の存在などの基準を指標とし、当該 100 冊を通じて、大正から昭和前期の日本における売立の歴史が概観できるよう配慮した。

これに続いて、収録作品のデジタルデータの作製、テキストデータの入力作業に着手し、年度末までに、売立目録 40 冊強、収録作品 12,000 件余について、作品のデジタル画像化を実施した。また、これと並行して、データベースを構成するテキストデータの項目の選定を実施、表計算ソフトを用いたテキストデータ入力からデータベースソフトへのインポート、画像データの貼り付け等、データベース構築の設計を行った。

一方、入札会の歴史や関係人物についての調査研究では、大正期以前を中心に、高橋箒庵『近世道具移動史』、『東都茶会記』、『万象録』などの文献に、入札会を報道する新聞、雑誌記事などを加え、各入札会の状況、各作品の落札価格、作品の売主・買主・札元の人物、関連作品の茶会や展示での使用に関するエピソード等の把握と整理に努め、それらのデータをデータベースに反映するための準備作業を行った。また、高橋の著書などで語られる人物やエピソード等は、益田鈍翁周辺の政財界人や数寄者を中心とするものであることから、それら以外の人物やエピソードに関しても、近代日本経済史関係の文献等を活用して把握と整理を試みた。

(2) 2008 年度

研究 2 年目に当たる当年度は、年度末までに、約 90 冊分までの収録作品のデジタル画

像データの作製、約 70 冊分までのテキストデータの入力作業を実施した。また、これと並行して、データベースを構成するテキストデータの項目の選定、表計算ソフトを用いたテキストデータ入力からデータベースソフトへのインポート、画像データの貼り付け等、データベース構築の設計、実験を行った。

一方、入札会の歴史や関係人物についての調査研究では、前年度に引き続き、大正後期から昭和初期を中心に、高橋箒庵『近世道具移動史』、『東都茶会記』、『万象録』などの文献に、入札会を報道する新聞、雑誌記事などを加え、各入札会の状況、各作品の落札価格、作品の売主・買主・札元の人物、関連作品の茶会や展示での使用に関するエピソード等の把握と整理に努め、それらのデータをデータベースに反映するための準備作業を行った。また、高橋の著書などで語られる人物やエピソード等は、益田鈍翁周辺の政財界人や数寄者を中心とするものであることから、それら以外の人物やエピソードに関して、特に当時の文人画愛好者の動向を中心に、近代日本経済史関係の文献等を活用して把握と整理を試みた。

また、同一作品が複数回にわたって入札に付された例を、調査過程の中でいくつか発見することができた。それらの作品について、所有者の変転やその理由、入札を経ることが作品の価値、評価に与えた影響等についての調査研究も併せて実施した。

(3) 2009 年度

研究最終年度は、研究当初選定した売立目録 100 冊について収録作品のデジタル画像データの作製、テキストデータの入力作業を完了した。また、これと並行して、データベースを構成するテキストデータの項目の選定、表計算ソフトを用いたテキストデータ入力からデータベースソフトへのインポート、画像データの貼り付け等、データベース構築の実用実験を行った。

一方、入札会の歴史や関係人物についての調査研究では、前年度に引き続き、大正後期から昭和初期を中心に、高橋箒庵等の著作、入札会を報道する新聞、雑誌記事などを加え、各入札会の状況、各作品の落札価格、作品の売主・買主・札元の人物、関連作品の茶会や展示での使用に関するエピソード等の把握と整理に努め、それらのデータをデータベースに反映する作業を行った。また、高橋の著書などで語られる人物やエピソード等は、益田鈍翁周辺の政財界人や数寄者を中心とするものであることから、それら以外の人物やエピソードに関して、特に当時の文人画愛好者の動向を中心に、近代日本経済史関係の文献等を活用して把握と整理を試みた。

これらの成果に基づいて、研究報告書の作

成を行なった。また、その成果の一部については、Web 掲載のための準備を実施した。

(4) 研究成果の公表

研究成果の公表に関しては、以下の 2 種類の方法によって、平成 22 年度中のできるだけ早い時期に、実施する。

まず、第一に、Web 掲載による売立目録所収美術作品に関するデータ公開である。

100 冊分の売立目録に所収されている約 30,000 点の美術作品については、各作品の売立出品時の名称、作者、付属品、法量、装丁、伝来、その他の基本データに加え、判明するものについては落札価格、並びに売立時の購入者、さらに判明する現在の所蔵者（公的機関に限る）の項目に関して作成したデータ一覧を公開する。デジタル画像データについては、そのすべてをインターネット上に公開することは困難であるため、各売立目録の中で、特に重要と判断した作品を上記データ一覧にリンクする形で、公開する。

第二は、研究成果報告書（別冊）の作製である。

従来、科学研究費研究成果報告書は、冊子体の形で作製されていたが、平成 20 年度から、電子媒体による提出となり、その分量も A4 用紙 4 枚から 6 枚程度の分量となった（本研究報告書）。しかし、本研究の総括的な取りまとめと、研究成果の詳細な発表のためには、従来の冊子体に準じる分量の報告書を作製する必要があるため、別冊としてこれを作製する。作製した別冊は、PDF ファイルの形式で、上記データ一覧を掲載する Web ページにおいて、平成 22 年度のできるだけ早い時期に公開する。また、必要に応じて、冊子体に印刷し、これを配布する。

なお、別冊の内容は、以下の通りである。

序

1. 入札会と売立目録

2. 入札会の実際

—大正 7 年の水戸徳川家入札会を例に

3. 高橋箒庵と入札会

—入札会の情報戦略

4. 入札目録 100 選

5. 売立をした人々

むすび

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔図書〕（計 2 件）

①高松良幸，住吉如慶・具慶の源氏物語画帖
『石山寺の美—観音・紫式部・源氏物語—』
所収，大本山石山寺・榊アート・ワン，2008
年，30—35 頁

②高松良幸, 売立目録所収美術作品のデータベース化とその近代日本における美術受容史研究への応用 (2007-2009 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書別冊), 2010 年

[その他]

ホームページ等

[高松良幸研究室 ANNEX]文化財と出会う

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~bunkazai/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高松 良幸 (TAKAMATSU YOSHIYUKI)

静岡大学・情報学部・教授

研究者番号：40310669

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし